

# 第3回（仮称）自治基本条例検討委員会 ひとことアンケートまとめ

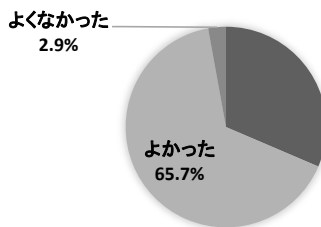
平成28年10月31日

## アンケート集計結果

受講者数	39
アンケート回答数	35
回答率	90%

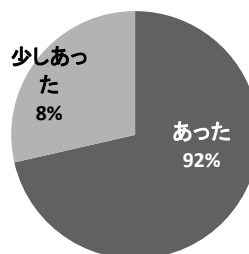
### Q1.今日はどうでしたか？

大変よかった	11
よかった	23
よくなかった	1
合計	35



### Q2.自分によって、プラスになるものがありましたか？

あった	25
少しあった	10
なかった	0
合計	35



### Q3.今日特に「気づいたこと」や「発見したこと」があれば、お書きください。

#### 《別の立場から考えると・・・》

- 多様性を認め合うことが大切。他人の立場に立つことが重要だ。
- 色々な立場に立って考えてみるということが、すべての基本であり、とても大切なことなのだということに改めて気づかされました。「ひとりよがり」にはならない条例が必要。
- 改めて、様々な立場になって考えることの重要性を感じた。議会の立場になるのが難しい。
- 自分の属性から外れたグループで話し合うことで、客観的に俯瞰的なものの見方がまとまった。
- 立場を変えて考えることの大切さに気付いた。（なりきりロールプレイ方式）
- 市と自治会とNPO団体と議会とすべての立場を理解して基本条例を考えていく必要がある事がわかった。
- 市民・議会・行政の各立場で、自治基本条例のことを考えることにより、幅広く意見をまとめられたことがよかった。
- 市職員以外の立場でなりきるのは思った以上に大変だった。
- いろいろな立場から自治基本条例の必要性について考えることができた。立場が違えば必要性の視点も違うことがわかった。
- 普段の自分とは違う役割を考える時間は貴重でした。議員さんに直接インタビューできて楽しかったです。

#### 《難しかった！》

- 知らないことがたくさんある…勉強しないとついていけない気がする…
- 今日は難しかったです。
- 条例はいろいろな立場から、考えて作成していくと思うと、すごく難しいと思ってしまいました。

これまで自治会と関わりは少なかったため、今日の議論は少し難しく感じたが、いろいろな意見を聞いて良かったです。

- 今回から話が中身に近づいていき、難しめな内容になったが、ワークを通して、意見交換をするのは非常に重要だと感じました。

#### 《その他》

- 一人ひとりが主人公になることが自治基本条例の目的ではないだろうか。直接民主主義への道を開くことが市民が批評家から地域課題に積極的に取り組むプレイヤーになることにつながると思う。
- 条例は「行政を縛るもの、行政から市民の自治を守るもの」だということを教えてもらった。
- 茶の木畑に入ったようだ。底辺から声上がるようなものでできればよいが。
- 市からではなく、小学校区単位での条例がよさそう。※準備にも市民メンバーをいれるとよいかも。
- 行政に対して、市民の多くは言わず語らずのお任せ民主主義化している事を行政TOP方々が危惧している。無関心ではダメだね、住民参画が大切。
- 行政は市民の立場を守る。市民は危機感を持つ。
- 住民目線からの条例は大切な事だと実感です。
- 参加者で話し合っってルール作りする、市民のための自治基本条例
- その場で作られたグループによっても、いろいろなカラーが出ると思った。色々な人に会えてよい。
- 自治基本条例が必要とされる背景を十分に理解していなかったことがわかった。まだまだ地域のことがわかっていない自分。
- 条例の役割や意義について、いろいろな意見を聞き、新たな気づきがあった。
- ようやく本題に入ったな、と。
- 班ごとの話し合いはよかった。

#### Q4.その他

- 条例とか決め事は自分が束縛されそうで嫌悪感があった。そうではなく、自分たちを守るものだとチームの方に教えてもらった。
- 条例制定のための基本的な考え方や明示すべき内容についての議論ができた。
- まちづくりについて、広く市民の関心を持ってもらうべく活動中です。
- やはり若い参加者が少ないですね。これは問題なのでは。
- ワークショップが長引いた時間延長はやむを得ないが、説明等で時間延長は好ましくない。時間厳守を!
- 終了時間が遅くなるのはちょっとつらいです。
- 参加している市民の人の熱意を感じた。まとめの時間をもう少し当初からとったほうがよいと思う。
- まとめが少し長いような気がしました。頭が?になってる参加者が多いように見えました。期間が短いため、仕方ないところもあるかと思いますが。
- 21時30分までは長い。(仕事を終えてから来ているので、途中でエネルギーが切れる)